

自作ロボの性能競う

県高校大会 4チームが全国へ

湯沢市



声をかけ合いながら
得点を狙う出場者

自作したロボットの性能を競う「県高校工業クラブロボット競技大会」が2日、湯沢市の湯沢翔北高校で開かれた。9校から10チームが出場した。福井県は多くの恐竜化石が出土することから、生徒たちは真剣な表情で高得点を狙っていた。

自作したロボットの操作し、コース上に置かれたテニスボール、大小2種のベットのボールを指定の場所へ運んだ数などで得点を競う。競技時間は3分間。1チーム3人編成で、生徒たちは状況に応じて「(ロボットをもう少し前に出そう)」「慌てずに狙っていきなう」などと声をかけ合っていた。

を駆け合っていた。

全国大会には優勝した秋田工(チーム名・AK-119)と準優勝の湯沢翔北(翔2023)、3位の大曲工(躍進)、4位の横手清陵(AVS)が出場する。(小林智彦)